

市長記者会見報告事項概要

令和8年8月25日(火) 午前11時00分～

1. 令和8年熊本地震について

- 熊本地震の発生から1か月が経過した。
- 8月13日には千葉豪雨が発生し、多くの尊い命が失われている。
- お亡くなりになられた方々に対し御冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。
- 本市は熊本県と深いつながりがある。
- 平成28年の熊本地震への支援をきっかけに始まった、山口ものづくり塾による「ものづくりフェア」は、震災を乗り越えて今年も開催していただいた。
- 熊本県の木村知事とは互いをよく知る関係でもあり、今回の地震について特に心配したところである。
- 10年前の熊本地震では、避難所の数が不十分であったことから、多くの方が車中泊避難をされ、エコノミークラス症候群による災害関連死が発生した。
- また、被災自治体の受援体制が不十分で、送られた支援物資の管理や仕分けが滞り、各避難所への円滑な配送ができなかったことが問題となった。
- この度の地震への対応については、10年前の熊本地震の状況なども踏まえて国がカウンターパート方式を制度化したことなどにより、被災自治体への迅速な職員派遣をはじめ、全国からの人的・物的支援の統制などがしっかりとしており、10年前

の地震の教訓が活かされたと思っている。

- 支援物資の集積拠点施設での仕分けについては、今回順調に機能していると思っている。
- 一方で、猛暑・酷暑により、空調が整備されていない避難所において、想定外の車中泊避難が生じたことから、いわゆる「ラストワンマイル」への対応については、引き続き、課題として残されているのではないかと思う。
- 加えて、避難所の熱中症、暑さ対策も、命を守るために非常に重要になってくる。
- 本市では、猛暑・酷暑下の災害時においても安心して避難所に逃げていただけるよう、来年度までに避難所となる全ての小・中学校体育館へのエアコン設置を進めることとしている。
- 計画通り整備を進めていく。
- 11月には、南海トラフ巨大地震を想定した72時間の防災訓練を行う。
- この度の熊本地震における停電や断水などの状況を十分検証し、活かせるものは訓練に取り入れていきたい。
- また、千葉豪雨では、記録的な集中豪雨により、内水氾濫による浸水被害が発生した。
- 本市における内水氾濫対策については、今年度、内水氾濫ハザードマップを作成し全戸配布したほか、雨水管理総合計画に基づき、ポンプ場の機能強化に取り組んでいる。
- 今回の千葉豪雨を踏まえ、あらためて市民の皆さまへ周知していきたいと考えている。
- 「市民の命を守る」ことが最優先。

- 「防災都市ほうふ」の構築を目指していく。
- 熊本地震への本市の対応として、発災後、災害義援金の受付や相談窓口の設置を行っている。
- また、宇城市からの要請に基づいて、7月30日からトイレレーラーを派遣し、現在も宇城市の小川防災拠点センターで活用いただいている。
- 人的支援としては、県と一体となって、消防、上下水道、事務職員など、発災以来、のべ28名を派遣している。
- 今後も、山口県などからの支援要請をもとに、できる限りの対応をしていく。